總生寛著

皇國地名往來

全

深澤菱潭書

總注
著寛

皇國地名注來

東京　萬笈閣發兌

瀛海三才傳

雪路玉
詐業多妙

當初一清
多欲多疑

北海道八十

總生寛著

○皇國の狀ハ蜻蜓の如く北緯度二十六度三十五分と四十九度の間東經百二十九度と百五十度の間に在り

沿岸の海常陸一帶を鹿島灘といひ相模の海を相模灘といひ伊豆の志摩

皇國地名往来

帝國圖書館藏

恐まくも畏き

神乃皇國を

大海洋の西北

又至る一帶を遠州灘といふ伊の海を沈加難といふ土佐の海を土佐の沖といふ中國四國の門を内海とへふ其東を播磨灘といふ西を水島灘といふ周防の海を周防灘といふ長門の海を

隅乃大嶋四国を保せり。許多の小嶋を保せり。地勢を狹く長く北を魯

響灘といふ筑前の海を玄界灘といふ日向の海を日向灘といふ石見一帝を石見潟といふ能登一帶を能登の海といふ

○神武天皇國造縣主を置天下を治め後列聖世中古

西亞と領内を。播磨と西を海。吹を。備乃新解。東北。千嶋乃西乃島を張

に至り書制度に倣ひて正官を設け國に兵仗を置軍團を造り源平氏の時に至り制度漸く解弛し源頼朝天下總追補使となり國司に守護を置莊園に地頭を置漸く封建の勢をなす足利氏に至りて全く封建の制を成織田豊臣徳川氏亦其制に

及ぶ所あり表面二百五十五方里餘の人數を確實なる眞計を知ること能はず

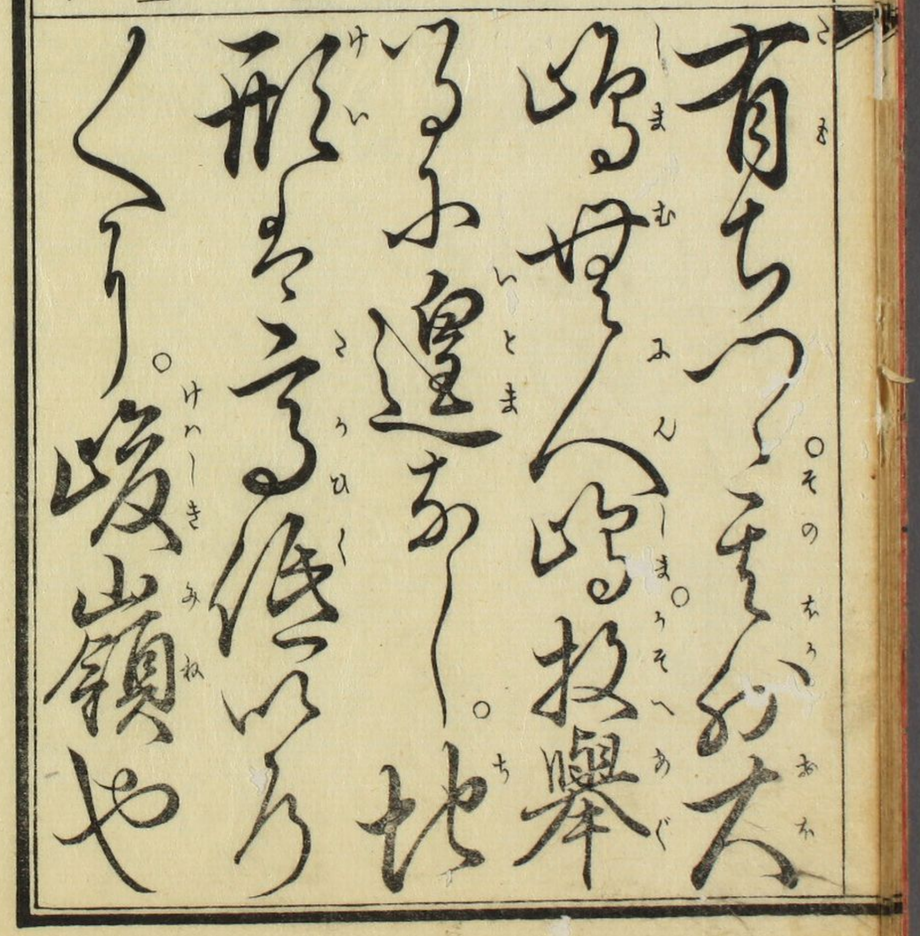
倣ふ王政復古して
各藩を廢し郡縣の
制に復し官省を建
て天下を統轄せ國
初より今に至る迄
二千五百三十四年
治亂変革一ならず
と雖政体い立君猶
裁さり明治維新に
至り議官を設て國

政を酌定せ
○天地開闢天之御
中主尊より伊邪那
岐神伊邪那美神に
て天神七代と云夫
より日子波限建鵜
葺草葺不合命にて
地神五代といふ神
武天皇より以来を
人皇と云今上皇帝

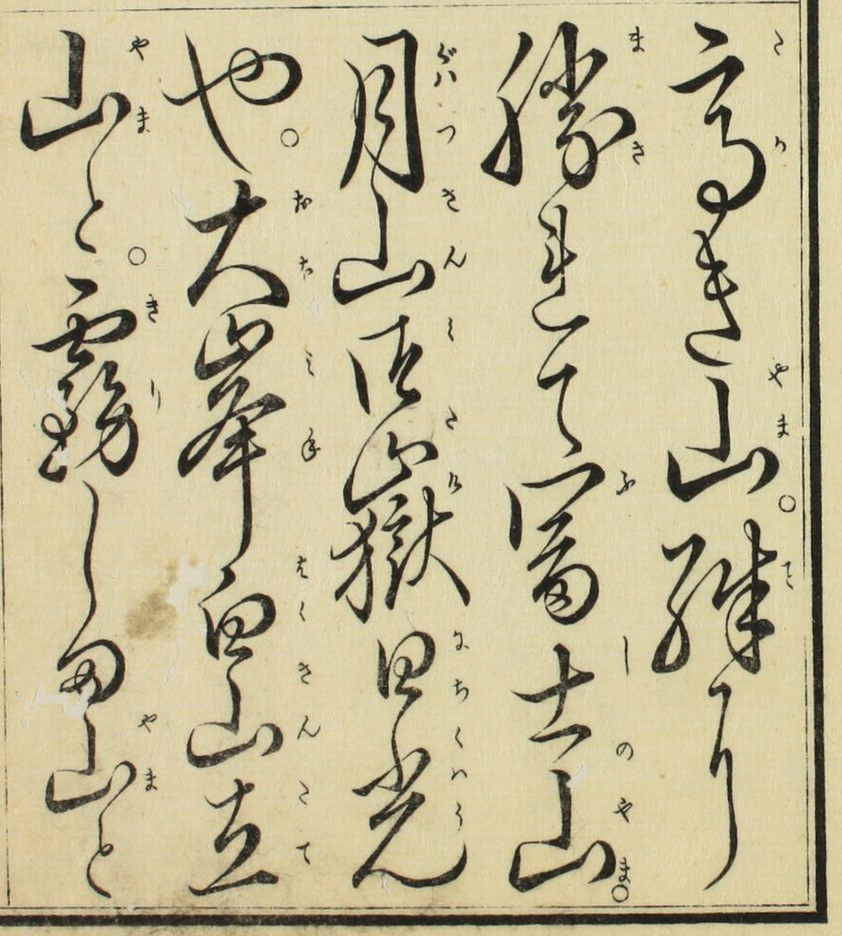
み至るまで百二十二代神系一統ゝして寶祚無窮なり

○年号い孝徳天皇の時大化と号してより明治ゝ至るまて改元まること二百四十三なり

○神武天皇より皇極天皇の時ゝ至り



蘇我蝦夷父子王權を弄し皇子中大兄藤原の鎌足と謀これを誅し十餘世の後文徳天皇ゝ至り藤原氏の勢威盛んゝして終ゝ政藤氏ゝ歸し保元平治以来平氏興藤氏王家と共ゝ衰ふ源頼朝



平氏亡滅し覇府を鎌倉に開き政權武門に歸せ北條氏陪臣を以て國命を執源氏亡ぶ後醍醐天皇の時勅王の師を募北條氏を滅し王政に復せ足利尊氏反し後深草天皇の亂を立是を北朝と

阿蘇の山麓波濤の海に沒し岩城山噴火の山も數多く屬地震の害

云後醍醐天皇大和に幸し吉野に拠とれを南朝とせ五十四年にして南北合して一となれども政權い足利氏に在十餘世を經て戰國となり織田氏豊臣氏興り海内を蕩平し徳川氏續て天下

えあり天明三年櫛巻地震て二十三箇の村落を埋没すて寛政の間に世に

を治むること二百五十餘年ふして王政ふ復ふ

○全國の学校ハ文部一省ふ統ハ大區とを之を大學區と稱し毎區大學校一所を置く一大學區を分て三十二中區とし之を中学區と

九州同じく人口三千萬人を數ふ。○あ壁級をるを以て佛之てり。清古人の詠歌も此事を

稱も區毎ふ中学校一所を置一中学區を分つ二百十小區とし之を小學區とし區毎ふ小学校一所をかく中学校以下い地方官其土地の廣狹人口の疎密を計便宜を以て郡區村市等ふより之

多くを見ること不なり。四地ふ高山多く水の源を流て海に注ぐ乃川源ある中ふ

を區分し一中学區内學區取締十名乃至十二三名を置

利根の流れ
作濃川本谷川
大きなる
冨士川大井川
坂田郡武蔵郡

一名ゟ小学區二十或三十を分ち持し
む六歳以上を学ゟ
就しむ又私塾家塾
有大学本部毎ゟ督
学局一所を置又外
ゟ廢人学校を置又
貧人学校を置又女
児小学を置と云又
諸民学校農業学校

くふ事作り濃
和り冨士
同一度教法設
生ける者
酷ふして國の

通雜学校商業学校
師範学校あり
○東海道の人情い
疏通慧敏ふり甲斐
い強ふして險ふり
東京い俠ふして浮
ふり上總下總い淳
良常い武ふして固
畿内い心匠精密西
京い雅ふして約也

西海道い剛直薩隅
い鷙悍肥後い峭直
肥前い矜厳北海道
い篤厚人を愛ま土
生の人い強健ふし
て愚魯ふり是未ど
教化の普うらさる
故ふ由のミ他日郁
文の民さるべし
○琉球い上古天孫

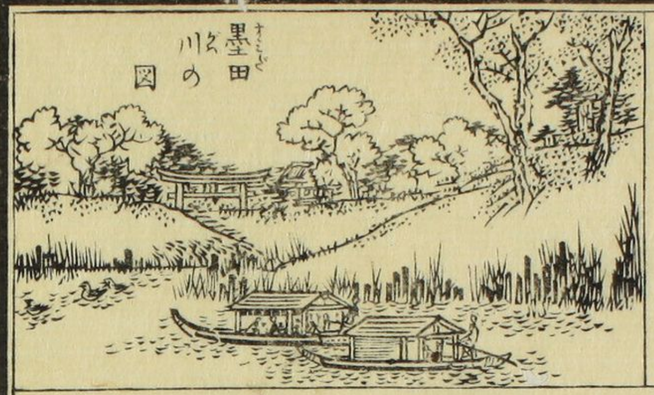
氏世を傳ふ二十五世ふして權臣利勇ふ滅せらる源為朝の子尊敦兵をあげ利勇を討し位ふ即舜天王と云舜天より三世ふして天孫氏の裔英祖ふ傳ひ英祖五世ふして浦添按司の子察度ふ

十二年此ふ都を定めらるゝ而城郭を築き夫よりゝ世ゝの都城地を垣

大坂府達ふして俗東山道ハ樸厚信濃上野ハ武ふして頑也岩代以野ハ朴直驍果北陸道ハ直實加賀以地ハ少しく固まり越後ハ淳雅山陰道ハ温順ふして狹固山陽道ハ巽順ふして文雅南海

ふ山嶽の間を圍て加茂川の清き流まを注くある。人口稠密く市街を繁く流く山

道い敦厚土佐い武健阿波讃岐い寛裕



水を養て美しく神社佛寺多く分て名を法敵山鬼門鎮護の為ふとて天台開基の最初なり是を建て所を宇を建て所を里加賀茂の神社小男山松尾平

傳ふ察度二世ヨリて佐敷按司尚司紹ヨ傳へ尚思紹七世ヨリて舜天の遠裔尚圓ヨ傳へ尚圓より今の尚泰ヨ至り十八世也天孫氏い大荒の乙丑より文治二年丙午ヨ至り凡一万七千八百二

年と云ふ天即位後
鳥羽院文治三年よ
り明治六年尚泰ふ
至り六百八十七年
まり上古い我内附
の國ゝり中古声息
絶へ足利氏の始よ
り明ふ聘ー復我ふ
属ー遂ふ両属の國
とふる王尚寧の時

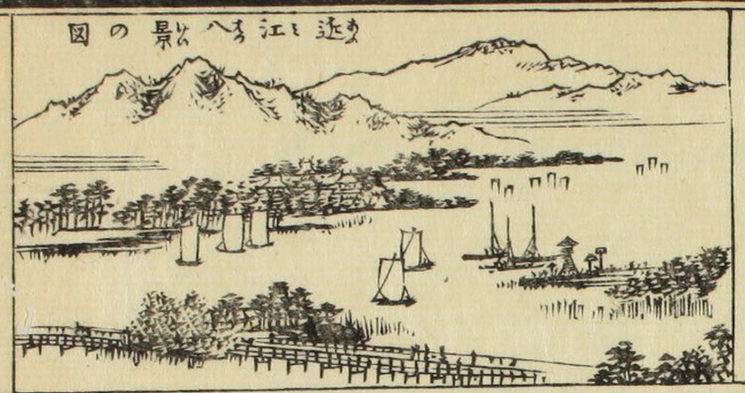
堅き大社にして。
人数凡百万年。
解まるこゝろにて
ゝ廣さ。支那の
北京ふ并ふ。

島津氏徳川氏の教
を奉し招ども来ら
ず因て之を伐ち慶
長以後全島津氏ふ
陪属も然れども我
ふ朝もれば我正朔
を奉ー彼ふ聘すれ
い彼年号を用ゐ且
國中及び諸外國の
交際ふ皆彼正朔を

東洋中の大都
會。さきにし庵
也國のうて。
の為ふ生地の。
大ふ沈まこい人

用ひ清國藩屏猶立
國と稱せり太政維
新の後明治四年鹿
児島縣の管とする
五年の秋其國を擢
て藩とし尚泰ヲ藩
王華族の爵を封冊
し幣帛及ひ邸を東
京ヲ賜ひ全く皇化
版圖ヲ復し名義を

正し國威を明ふも



堪。金剛山のそ
昔。楠氏ヲ友軍
の為り守りて
百万の賊乃軍
勢引受て。激戦

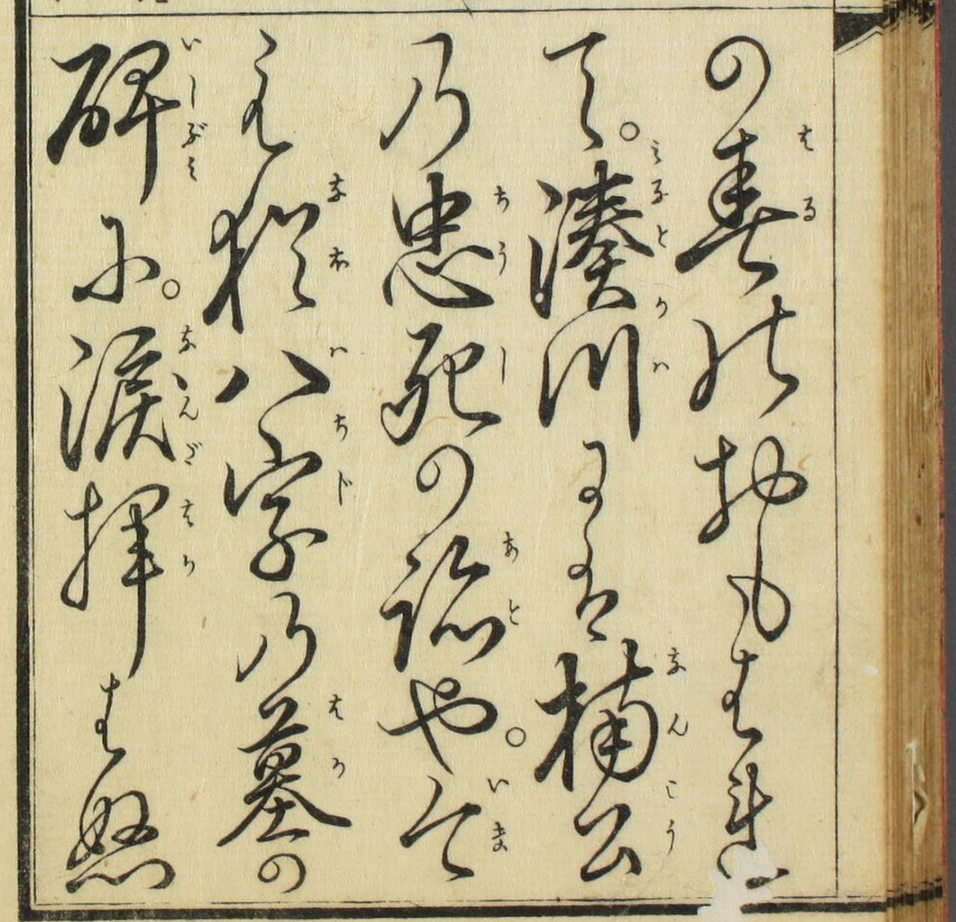
○地の大なるを洲
といふ小なして水
四圍もるを島と云
地の高く聳るを山
といふ卑して小な
るを丘陵といふ山
勢連續して斷ざる
を山脈といふ山彙
といふ平坦なして
廣を原といふ野と

所を所と和
泉の國は大和川
堺を吹えて土
地とつゝ攝津乃
國を大坂は豊矣

いふ山の如くみ
て上平らなるを高
原と云二山の間水
の赴くを溪谷と
ふ三面水を帶るを
隅といふ半島と
ふ彈丸の地海中ゑ
汁出もるを岬と
ふ角といふ山を以
て畫るを岌といふ

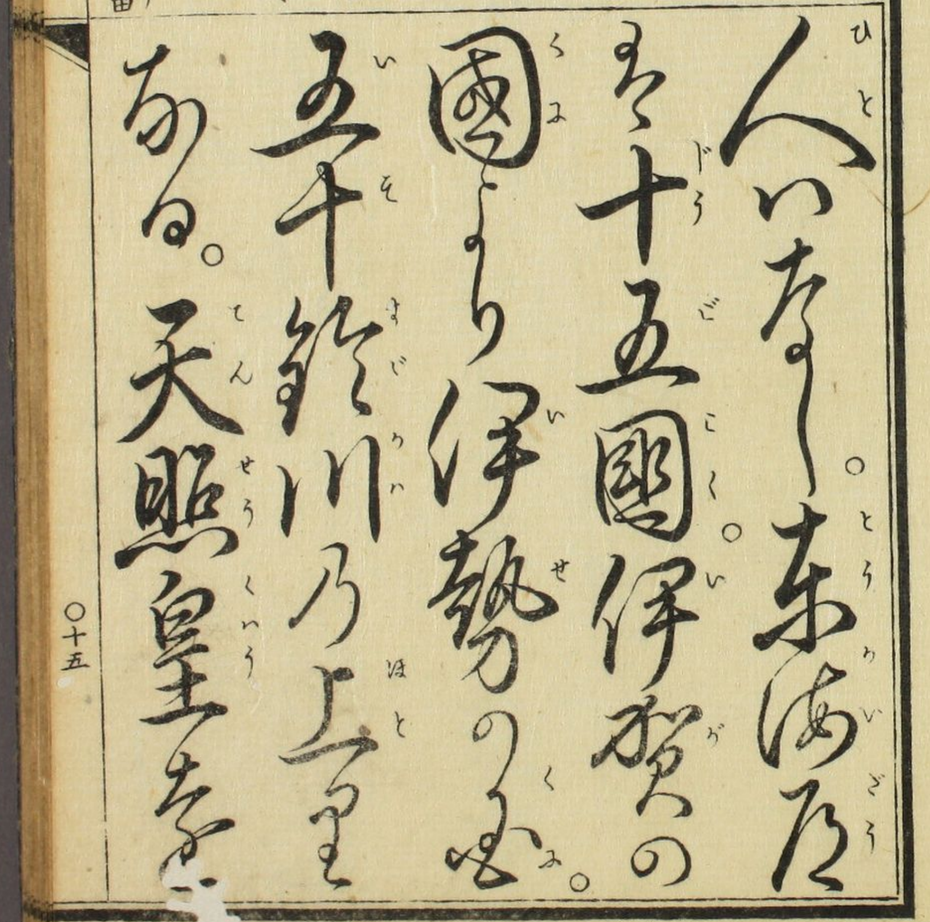
閑の堺を築き。
渡川等の大流を。
俱吉の邦名を
言く。出雲源廉
寺一乃谷壽永

両地の間一綫路を通し左右水を受るを地峡といふ水の大なるを洋といふ洋より分つて大地に近きを海といふ海より支分して地中に入るを灣といふ船の停泊處を港といふ地の間海



水流通して狹隘なるを海峡といふ水の海より流出して細小なるを泉といふ流れて大なるを川といふ水の一処に滙して浅く且泥あるを沼と云深くして清を湖と云

○我大日本國は當



初め豊葦原の千五百秋瑞穂の國とも浦安の國とも細戈の千足國とも磯輪上秀真國とも大倭秋津島とも或扶桑國とも君子國とも稱す

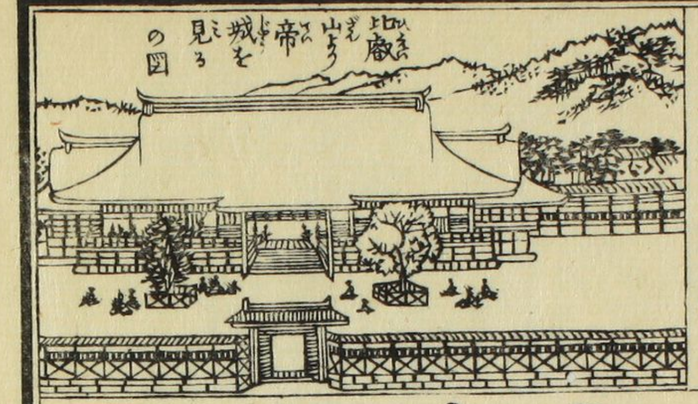
○本朝の名賢い可美真手命道臣命日

祀い。垂仁帝の御代たりしき。志摩の国より尾州尾張の国の内なり。源義

本武尊武内宿祢博士王仁聖徳太子大織冠鎌足淡海公舎人親王和気清麿吉備公阪上田村麻呂昭宣公菅公藤原利仁皇孫経基平貞盛藤原秀郷小野好古源頼義家藤原藤房源忠頼護良親王楠

朝の古跡あり。永和年間五月。戦死をしる。楠殉ずる小敵を見て侮りて後の

正成児島高徳源長年新田義貞等也



隆盛を発生する。三河乃國乃長篠。毛利氏の軍多敗北する武田乃家は乃滅亡也。

神武天皇東征の後都を大和國橿原ゝ定め國造等をおき成務天皇の時山河を界し國縣を分つ孝徳天皇の時より元明天皇の時ゝ至り國を郡とし或い併せて一とし或い割て二とし或い淳

遠江より駿河

大江富士川

富士の山高きこと

甚多数あり。

絶頂雪あ

和天皇の時種子島を大隅國に隷して以後畿内七道及ひ二島を合せて六十八國より明治元年十二月陸奥を分て五國とし出羽國を割て二國とも同二年八月蝦夷を開拓して十一國とし更

星て白き屑を倒ふ巡り巡るに見えて和て星に係る乃ち東海寺。海に臨て京色

めて北海道と稱も則新古の國を併せて畿内八道八十四國其他屬島大小數處あり

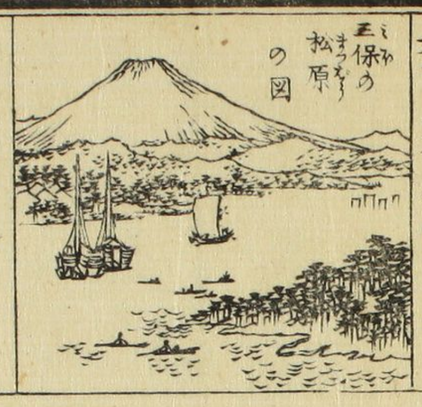
○東海道諸國地気温和函嶺以西ハ海風強く以東ハ陸風吹畿内諸國風少く寒暄宜きを得東山

より甲斐の國に入り身延に出て日蓮宗の巨刹なり。富士山を仰て勝頼の戦死乃ち松を遺す。

道諸國ハ霜露早く降る岩代以北ハ氷雪凝積せ北陸道諸國ハ風強く雪多し山陰道諸國ハ寒暖俱ゟ強く山陽道諸國ハ地気温平風少し南海道諸國ハ皆煖燠西海道諸國ハ暖多く寒少し北海

伊豆の國より相模ふて。是箱山ふ相山石橋山ふ新の篠揚ふ武蔵の國ふ墨田川東京城乃名所ふて。春ふ桜ふ夏ふ郭公ふ秋ふ

道ハ寒威凛列ふり



○動産

國内獣類甚多からぎ羊山羊驢騾駝象虎の如き人未ゞ

根の桑の游ふ池

知らざる者多し牛は唯使役に供すと雖も乳汁及び酪の如き多くは食に供せず一種の野牛あり形酪駝に似たり都人之をもちひ物を牽のしむ馬は甚だ小なれとも頗る つよし 豕猪麋鹿熊

月見不多い雪
風流まるで唐の
公子王孫集ひ
東京。此不健興を
楽でなり 水川い

兎猿猴狐狸鼠猫烏雀雞鶩の如き其類甚だ多し又國四面海に瀕するに因り魚類に富み赤鬃魚比目魚鱒魚鮭鰊魚鱧魚の属國人みな食に供す故に海岸は概ね漁夫の家多しと

國の雑事に
穢文乃山は嶺深
くして。
上總路も下總の
国に有ると書

植産

皇國い熱温両帶の諸産物両るゞら之れを有するがゆへよ名地の植物も多い

乃ち壯印幡沼小童の多い喉地を。真間の継橋小府産。床〳〵き名所數〳〵小。岩瀧

ゞお沒く棕櫚芭蕉竹の類松杉樫檜杏梅櫻橙桃李銀杏の類枚挙するよ遑あらゞ田野い自然よ肥沃ユーてうつ人民能く耕稼よ勉むるゞゆへよ植物よ宜しきの地い概ね開墾せさる所なし

乃國い筑波山。山高き事山筑波山あり。ひ高の浦也鹿嶋小。茨城の郡小。を祀りなり東山

南西地方ハ在りて
ハ多く砂糖煙艸茶
等を植へ米ハ一年
の内二度の收納を
得へ一東北地方ハ
在りてハ桑多きが
故ハ皆蠶を養ひ絹
糸及ひ織物を産す
る甚多し小麥大豆
小豆胡麻の類胡椒

さて十二國近江
乃國ハ琵琶の湖
伊賀國ハ石山清水瀬
田也。栗津唐崎
猪ノ口三井を八

樟脳等ハ各地産せ
ざるなし就中南方
温暖の地ハ尤も多
し茶圃亦多しと蚕
も未だ支那の大な
るハ如ず

礦産

諸島の土質ハ地家
も金属ハ富む金銀
銅錫鉛鉄を出す佐

東と云称し
きまり品川の遺
迹あり。英濃乃
國ハ関ヶ原東
西分目の古戦場

渡ハ殊ニ金ニ富む
皇國産する所の銅
錫ハ其性最美なり
と称す國家始めて
外國と互市を開く
ニ當り金銀の輸出
毎歳四百二十万元
ニ至る

製造

製造及ひ伎巧の風

美濃の瀧ヲ破の
美。乾坤乃ゆ
信濃の洗ます。御嶽
浅間浅間の川
中ゆ高ゆ信濃と。

概ね支那ニ似たり
鐵銅鑛鐵の製造ハ
最も巧なりとす九
州の西港長崎等の
如きハ望遠鏡寒暑
鍼各種の時辰表等
を製する其工も亦
妙なり各地絹綿織
物の製造ハ其質美
麗緻密ニて且つ

備後ハ不幾多
ゆ多郷あるも沼
なする。上野乃國
下野ゆ日光山ゆ
奈須野原殺生

能く久しきふ堪ゆ
磁器の如きハ実ふ
支那ふ勝れり

楠正成の城を守る

石の窪〻〻岩
堀の水ハ白河乃
関ハ名所の名を
多し。鎌倉代乃國
陸奥のいわ根川ふ

又硝子を製すと虽
も其製未だ宜しか
らす漆器の製ハ最
も巧妙ふして海内
絶て比類ふ又桑
皮を以て紙を製し
其質脆軟ふらずし
て撚りて線とふす
べく織て衣とふす
へく其用却て歐州

宮城郡と塩竈
神社金花山壷
乃碑松島と。
さ間〻乃風流地
陸中の国衣川。

の物は勝れり造船
築家の術未〻精巧
を得すと雖も神殿
樓閣等は至りてい

言る館等を打
誠きを。隆興乃
由てもて羽前まて。
秀衡の墓今こん
所は○ちんーゆ
狩詰るの憂を歓

まく見るへき者あ
り下野の日光山下
は築く所の者の如
きハ數十の殿宇層
々として林間は聳
へ金銀を以て之を
彫鏤し丹青を以て
之を繪染し彩色爛
然として美觀といふ
べし又鑛鐵の製を

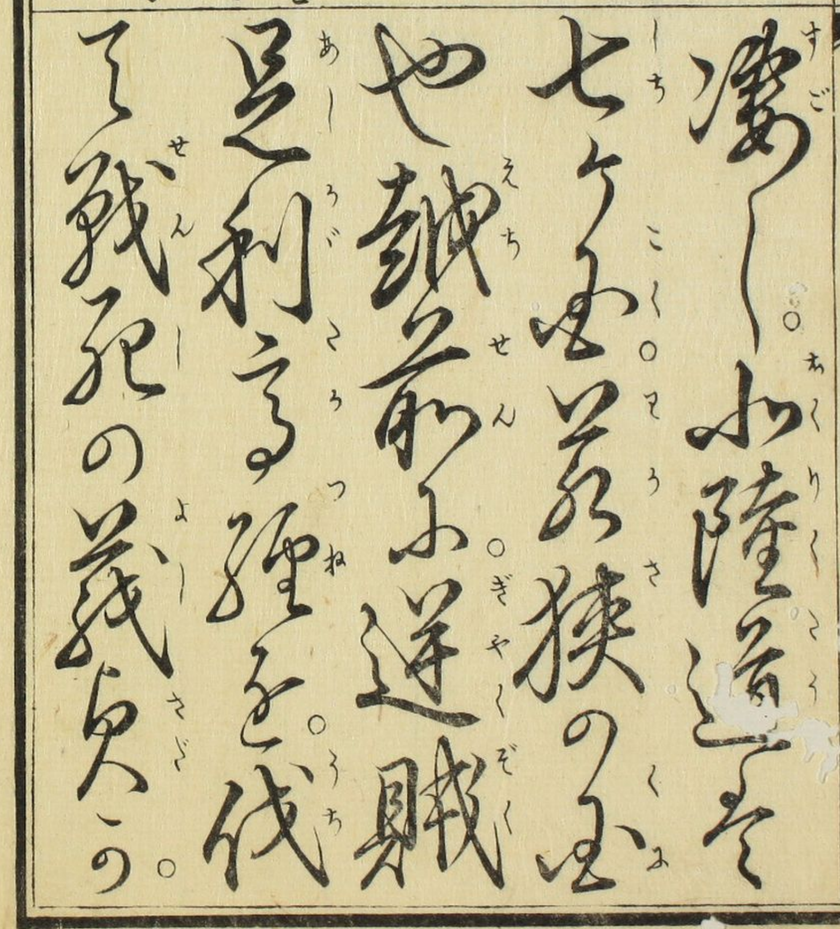
墓乃流れ疾く。羽
沒の國まで海
山厨川は貞任
乃。塩竈果て物

○ぎ

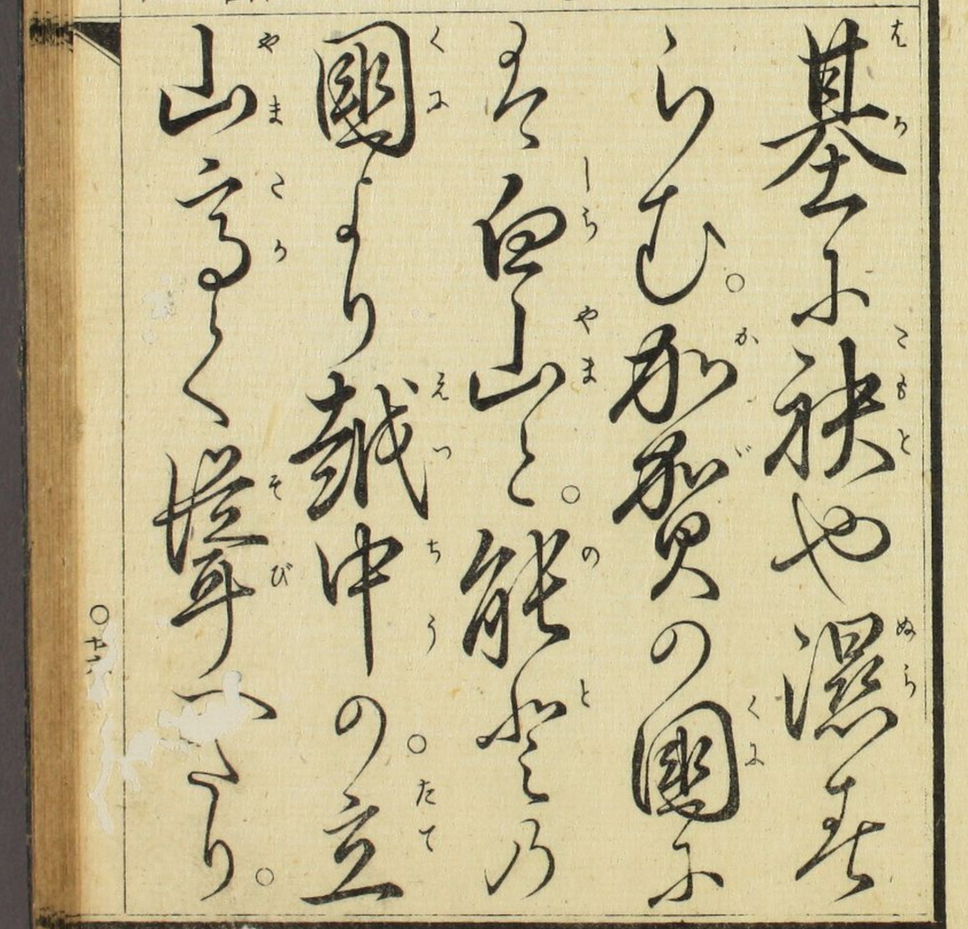
能くす其刀劔の如きい尤も鋭利なり彫鐫鑄造の事ゝ至りても亦妙なりとい

貿易

歐州諸國と貿易をゝすの濫觴ハ天文十一年千五百四十二年葡萄牙人始て来舶し次



年長崎港ゝ於て貿易を開きしゝ後荷蘭英吉利相次て来り遂ゝ異教を人民ゝ傳へ寛永の季年遂ゝ肥前島原の亂あり此ゝ於て全く外國の貿易を禁し獨り支那荷蘭の兩國の交通を許せり然



越後の國より海
作る。古昔を所く
ふ者きたるふ伐後
の海より越後より。
北海道を十八

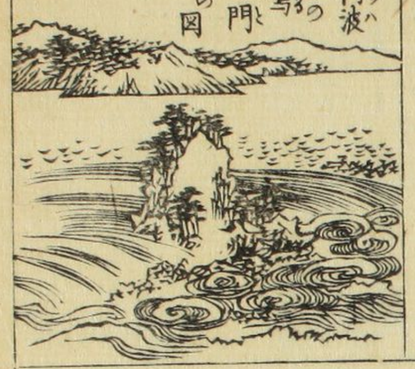
里。陸奥の島の数
昌り。金山あるを
てを事無ふ。堀出
数ふ業許を順
徳帝の後裔逆臣

地名性質

と〻和蘭の如き
一年二艘船舶を送
るを許すのみにて
毎歳僅み三十五万
元を輸出せりとい
ふ嘉永二己酉の年
千八百四十九年 亞米利加の水
師提督ペルリー氏
あるもの船隊を率
ひ浦賀み来る此み

始て通商往来の約を結ひ爾来英佛魯孛澳伊葡瑞丁白布其他諸國相次て到り方今ハ至りて交通盟約をなす者十六ケ國ハ及へり互市の湊ハ横濱兵庫大坂新潟長崎箱館の六處なり最盛

小條義時ハ乃ち遷さき崗に居る。根本今ハ切崖山陰道を去る。八ケ國ハ丹波の國ハ大江山ハ乃ち其の南ハ波の國ハ阿波の鳴門の図



なる者ハ横濱をいて第一とし兵庫第二大坂第三長崎第四箱館第五新潟第六とす

遷さき。丹波の國ハ大江山ハ乃ち其の南ハ波の國ハ阿波の鳴門の図に居る。根本今ハ切崖山陰道を去る。八ケ國ハ丹波の國ハ大江山ハ乃ち其の南ハ波の國ハ阿波の鳴門

○皇統ハ神代より一系ヨリて今日ヨリ至るまて相同し然きとも神代の年歴い考ひ知り難し人皇神武天皇即位の元年辛酉より明治六年ヨリ至りて歴數二千五百三十三年ヨリて百二十三代

也ハ阪瓊の曲王と八咫鏡と草薙の剣と三種の神器を傳へて即位の例とす

皇系略

人皇初代　神武天皇
二代　綏靖天皇
三代　安寧天皇
四代　懿徳天皇
五代　孝昭天皇

隱岐乃國隠島

羽の帝社あり。

山陽道ハ七ケ国

播磨國ハ三郡

や。明石の浦と人

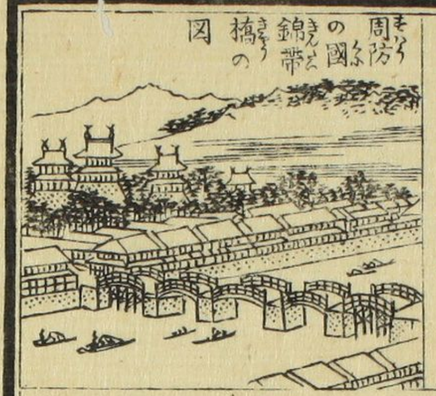
六代　孝安天皇
七代　孝靈天皇
八代　孝元天皇
九代　開化天皇
十代　崇神天皇
十一代　垂仁天皇
十二代　景行天皇
十三代　成務天皇
十四代　仲哀天皇
十五代　應神天皇

丸の社を過ぎて
舞子濱風致を
所々に數多く見
作備前備中と。
備後を讃て有

十六代　仁德天皇
十七代　履仲天皇
十八代　反正天皇
十九代　允恭天皇
二十代　安康天皇
二十一代　雄略天皇
二十二代　清寧天皇
二十三代　顯宗天皇
二十四代　仁賢天皇
二十五代　武烈天皇

藝の宮島を右に
見て厳島周防
の國に出る岩國の錦
帶橋の美麗く。
長門の國に下る

二十六代　繼體天皇
二十七代　安閑天皇
二十八代　宣化天皇
二十九代　欽明天皇
三十代　敏達天皇


周防の國錦帶橋の図

関の小倉へ渡る海峡。わつか一里の海にて。實ともに國の門戸にて海路の入口なり

三十一代　用明天皇
三十二代　崇神天皇
三十三代　推古天皇
三十四代　舒明天皇
三十五代　皇極天皇
三十六代　孝徳天皇
三十七代　齊明天皇
三十八代　天智天皇
三十九代　天武天皇
四十代　持統天皇

乃國とは和歌の濱。玉津島なる神の名なり。夜通姫とは永き。允恭帝は龍をうけ才藻

四十一代　文武天皇
四十二代　元明天皇
四十三代　元正天皇
四十四代　聖武天皇
四十五代　孝謙天皇
四十六代　淳仁天皇
四十七代　稱徳天皇
四十八代　光仁天皇
四十九代　桓武天皇
五十代　平城天皇

て歌詠まき。
妙なりて。
元正天皇。和銅式部
乃墓所の伝法寺
跡なる雜賀。和

五十一代　嵯峨天皇
五十二代　淳和天皇
五十三代　仁明天皇
五十四代　文徳天皇
五十五代　清和天皇
五十六代　陽成天皇
五十七代　光孝天皇
五十八代　宇多天皇
五十九代　醍醐天皇
六十代　朱雀天皇

泉。
て。阿波の国ふ
波。渡り
鳴門。海水
て螺の
都。岩を衝き石

小艦てきて百雷の。轟轟くめく吟えて。り船出ふ躍出て。出て沈めて轉疾して。その方遠ふ

六十一代　村上天皇
六十二代　冷泉天皇
六十三代　圓融天皇
六十四代　花山天皇
六十五代　一條天皇
六十六代　三條天皇
六十七代　後一條天皇
六十八代　後朱雀天皇
六十九代　後冷泉天皇
七十代　後三條天皇

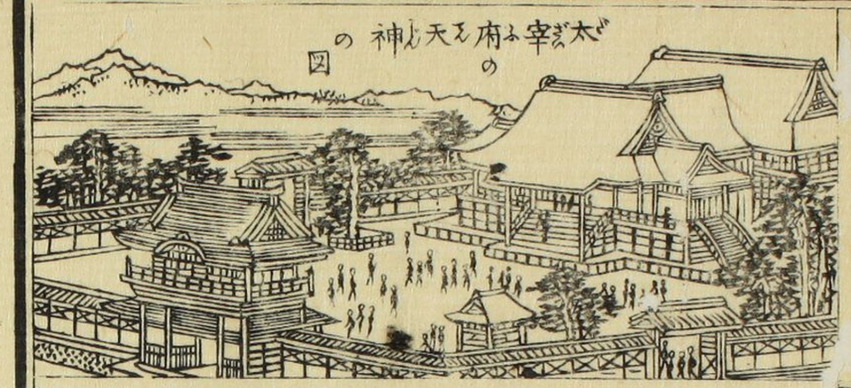
なり。其傍ふ又水を出て。ありて小鳴門。人の畏る危險なり。讃岐乃國を保元の亂り

七十一代　白河天皇
七十二代　堀河天皇
七十三代　鳥羽天皇
七十四代　崇徳天皇
七十五代　近衛天皇
七十六代　後白河天皇
七十七代　二條天皇
七十八代　六條天皇
七十九代　高倉天皇
八十代　安徳天皇

承て讃岐に流し。崇徳の淺ゆ八島
潟檀の浦に移し奉る。安徳帝を
族乃。奉裁し。家を滅

八十一代　後鳥羽天皇
八十二代　土御門天皇
八十三代　順徳天皇
八十四代　仲恭天皇
八十五代　後堀河天皇
八十六代　四條天皇
八十七代　後嵯峨天皇
八十八代　後深草天皇
八十九代　亀山天皇
九十代　後宇多天皇

也。旧地に至の
馬に前ふ戦死せし。
次信ら墓にうもと
以て伊豫の国に
義助の兄に代りて



太宰府天神の図

南朝の衰微に興復きん
とする事を謀る
菅原道真公沒して
墓ふ功績をを
きて土佐の国

九十一代 伏見天皇
九十二代 後伏見天皇
九十三代 後二條天皇
九十四代 花園天皇
九十五代 後醍醐天皇
九十六代 光厳天皇
九十七代 光明天皇
九十八代 崇光天皇
九十九代 後光厳天皇
百代 後圓融天皇

とゝ佐隣なり西海
道を九ヶ國ふ管ぜん
の内ふ太宰府あり。
天満宮の神社
筑紫を治めて世を

百一代　後小松天皇
百二代　稱光天皇
百三代　後花園天皇
百四代　後土御門天皇
百五代　後柏原天皇
百六代　後奈良天皇
百七代　正親町天皇
百八代　後陽成天皇
百九代　後水尾天皇
百十代　明正天皇

宇佐八幡の社より。彦山權現名も高く。豐後の國祇園の水。

百十一代　後明光天皇
百十二代　後西天皇
百十三代　靈元天皇
百十四代　東山天皇
百十五代　中御門天皇
百十六代　櫻町天皇
百十七代　桃園天皇
百十八代　後櫻町天皇
百十九代　後桃園天皇
百二十代　光格天皇

古屋長崎溫泉の嶽獄なる種の名所。祇園の山日向の國の霧島高千穂

百二十代　仁孝天皇
百二十一代　孝明天皇
百二十二代　今上天皇

山なる迷地を祭。大隅薩摩を能。
きの西なる紀
前より海路を隔
つ十五里なり。甚

官幣國幣諸社

官幣大社

賀茂別雷神社　山城國
賀茂御祖神社　山城國
男山八幡宮　山城國
松尾神社　山城國
平野神社　山城國
稲荷神社　山城國
大神神社　大和國
大和神社　大和國

狭き嶋なりき。夫
より西は海の平。
早十八里の波路来
て。對馬の國なり。
嶋なり。祭る神社

石上神社	大和國
春日神社	大和國
廣瀬神社	大和國
竜田神社	大和國
丹生川上神社	大和國
牧岡神社	河内國
大鳥神社	和泉國
住吉神社	攝津國
生國魂神社	攝津國
廣田神社	攝津國

海神を。彩解乃地の金山浦へ。四十八里。絶隔まて天。軍。明暗ある時。岸の山岳お望。

氷川神社	武蔵國
安房神社	安房國
香取神社	下総國
鹿島神社	常陸國
三島神社	伊豆國
熱田神社	尾張國
日吉神社	近江國
日前神社	紀國
國懸神社	紀伊國
出雲神社	出雲國

誠に國の要地。まもる。北海道。十一乃。國を保して。其名。渡島。沒志石狩。天塩

宇佐神社　豊前國

官幣中社

梅宮神社　山城國

貴船神社　山城國

大原野神社　山城國

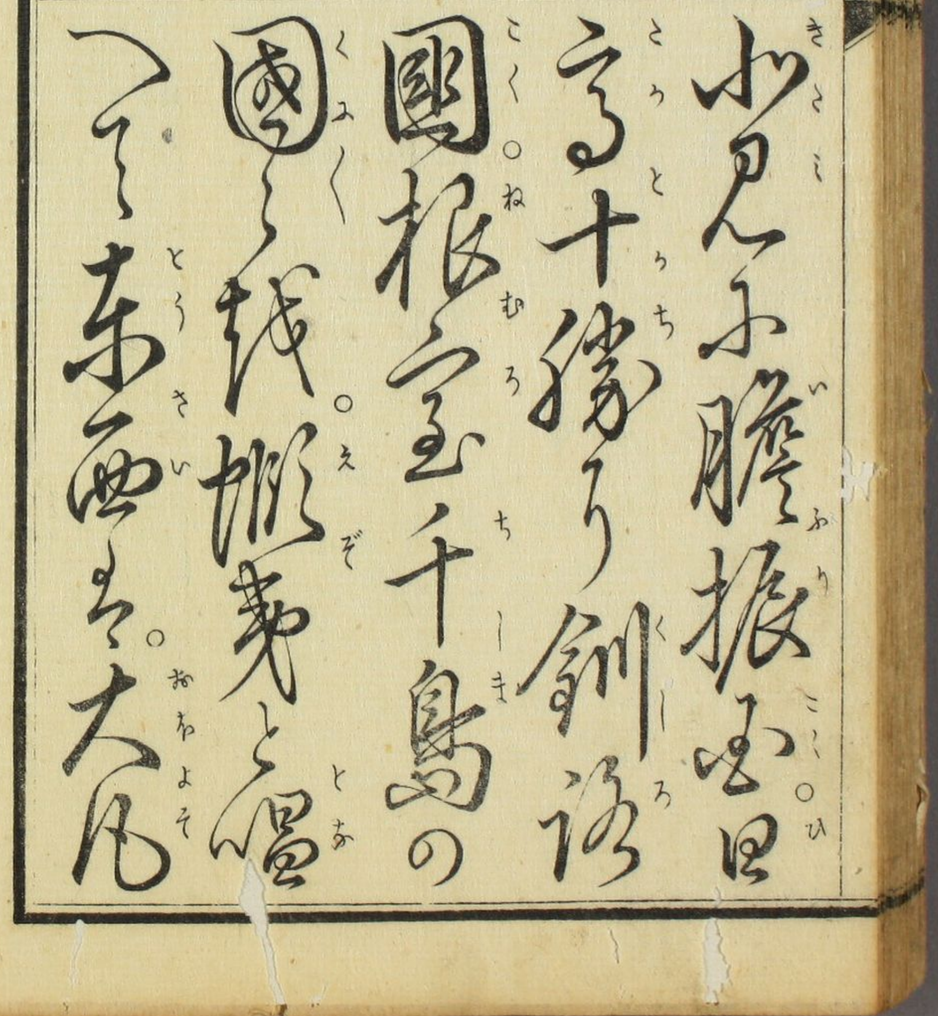
吉田神社　山城國

北野神社　山城國

八坂神社　山城國

官幣小社

札幌神社　石狩國



渓川神社　河内國

國幣大社無

國幣中社

敢國神社　伊賀國

角避疾神社　遠江國

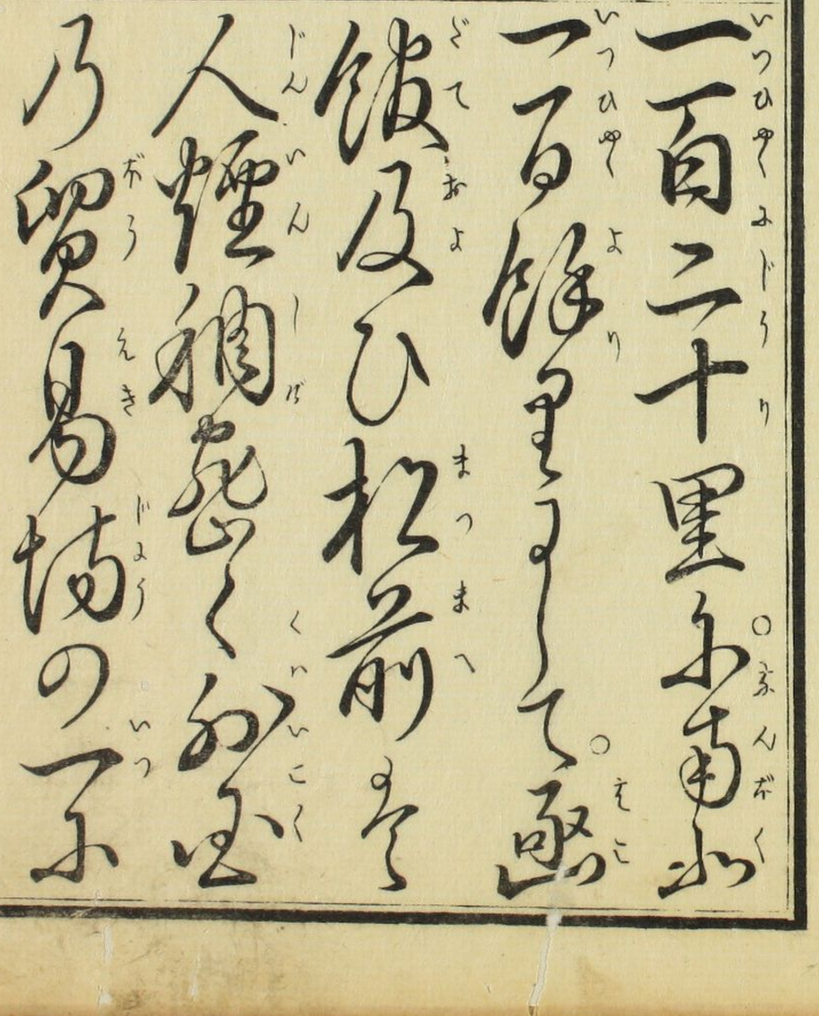
淺間神社　駿河國

淺間神社　甲斐國

寒川神社　相摸國

玉前神社　上総國

南宮神社　美濃國



諏訪神社　信濃國
貫前神社　上野國
二荒山神社　下野國
都々古別神社　岩城國
志波彦神社　陸前國
大物忌神社　羽前國
若狭彦神社　若狭國
気比神社　越前國
気多神社　能登國
射水神社　越中國

志て諸方の高拙
稿積。内地乃在
物輸出せり樺太
乃地そ長さ。
二百二十里そ幅い

弥彦神社　越後國
出雲神社　丹波國
籠神社　丹後國
水若酢神社　隠岐國
海神社　播磨國
中山神社　美作國
安仁神社　備前國
吉備津神社　備中國
厳島神社　安藝國
住吉神社　長門國

二十餘里ありて出
八そ。琉球國い薩
摩まる。西そ南の
海路をい百三
十餘里ありて沖

熊野座神社　紀伊國
伊弉諾神社　淡路國
忌部神社　阿波國
田村神社　讃岐國
大山祇神社　伊豫國
土佐神社　土佐國
宗像神社　筑前國
香椎宮　筑前國
高良神社　筑後國
西寒多神社　豊後國

繩嶋と名付くる長さ二十七里。其幅二里の處。土佐に屬す。和ふ屬嶋三十餘気候

田島神社　肥前國
阿蘇神社　肥後國
鹿兒島神社　大隅國
住吉神社　壹岐國
海神神社　對馬國
國幣小社
砥鹿神社　三河國
水無神社　飛騨國
駒形神社　陸中國
陸奥國

温暖日時とも不。雪氣見無と雖も。抑今此家國も。府縣と共に皆共に合と

出羽神社　羽前國
白山比咩神社　加賀國
度津神社　佐渡國
大神山神社　伯耆國
日御碕神社　出雲國
物部神社　石見國
沼名前神社　備後國
玉祖神社　周防國
事比羅神社　讃岐國
英彦山神社　豊前國

参事ども。諸員を置て人民を。強官ども。免人数。華族。士族。平民。

大宰府神社　筑前國
都農神社　日向國
枚聞神社　薩摩國

皇居略表

同國中の遷居之を略〻他國ゑ迂らせ給ふ者を表出すること然り

人皇初代神武大和橿原ふ都〻十三代

偉偉。数を分ち。容貌秀美。骨格雄偉なる者。多く。婦人。肌膚の色白く。

成務天皇近江志賀
ゝ都ー十四代仲哀
帝長門豊浦ゝ都ー
十五代應神天皇大
和輕島ゝ都ー十六
代仁徳帝難波高津
ゝ都ー十七代履仲
帝大和磐余ゝ都ー
十八代反正天皇河
内丹比ゝ都ー十九

風俗娜娜なる
種々〻人の心を
義ゝ事〻友と交
る情慾の源きゝ
世界各国ゝ法類

代允恭帝大和遠飛
鳥ゝ都ー三十六代
孝徳天皇難波長柄
ゝ都ー三十七代齊
明天皇大和後飛鳥
ゝ都ー三十八代天
智帝近江大津ゝ都
ー三十九代天武天
皇大和鳥飛ゝ都ー
四十九代桓武天皇

ひろく地球
ざ。皇統系古ふ
易ます。神の源代
ゝる事ゝ今乃世ゝ
ゝ代ゝて連綿と。

山城平安城ゑ定め
九十五代後醍醐帝
大和吉野ゑ都し百
二十三代今上皇帝
武蔵東京ゑ都す

天地無窮乃寶
祢ちり言語を
自然と和くみ乃。
語あまねく通の
ことを。伝習して

御祭祀表

一月一日　四方拜
三日　元始祭
廿三日　孝明天皇祭
廿九日　神武天皇即位
二月廿三日　仁孝天皇祭
三月二日　祈年祭

地名生産

より自ら。漢語を
雜へ衣服をも度
乃制度を採り
用ひ。國産物
精工り。殖産興

九日　枚岡祭
十六日　大原野祭
廿日　春季祭
廿一日　春日祭

四月七日
神武天皇祭
廿七日　大和祭
三十日　廣瀬祭
竜田祭

五月三日
大神祭

八日　平野祭
十三日　東照宮祭
十五日　稲荷祭
廿日　松尾祭
日吉祭
廿一日　賀茂祭
廿四日　吉田祭

六月十九日
楠社祭
廿五日　貴船祭
三十日　大祓

七月八日
氷川祭
九日 八阪祭
十五日 北幌祭
熱田祭

九月一日
安房祭
十四日 鎌倉祭
廿三日 秋季祭
廿五日 北野祭

十月一日

古を開くの月より日本有史を通して。智識を開き識を博めるの基械器天文遠望

井伊谷祭
四日 大鳥祭
六日 宇佐祭
七日 三島祭
九日 豊岡祭
十一日 香取祭
十七日 白峰祭
廿九日 生玉祭

十一月四日
石上祭

刑律徒考ひ窮免百姓を忍罪化進歩乃限を尽く。太平樂の御代なるまき。

五日　神宮遥拜
六日　神宮新嘗祭
十一日　天長節祭
十五日　國縣日前祭
十二月十八日
後桃園天皇祭
三十一日　大祓

菱澤先生書目

地名注来

頭書傍訓　渡邊資書

菱澤深澤先生書目撰表

本石町二丁目

敬允書林　江島喜兵衛

小學習字讀本

首書再入　世界都路　定價五十匁　前三冊
同　五十五匁　後四冊

文明開化往来　定價三十匁　前二冊
同　三十七匁五下　後三冊

小學習字八門　定價一冊ニ付十二匁ヅヽ　六冊

啓蒙二十三帖　定價十八匁　二冊

皇國風俗往來　同　十八匁　一冊

皇朝千字文　同　九匁　一冊

皇國地名往來　同　二十錢　一冊

横濱往來　同　七匁五分　一冊

農學往來　同　四十五匁　四冊

訓蒙世界史略　同　[redacted]　六冊

女學の勸め　同　十二匁　一冊

開化日用文　同　[redacted]　一冊　二三調出

石摺真書千字文　同　[redacted]　一冊

石摺真書三字經　同　[redacted]　一冊

三體千字文　同　[redacted]　三冊

開化のかけてい　同　九冬　一冊

日本國盡　同　六冬　一冊

女學の梯　同　[redacted]　一冊

富國乃基　同　十二冬　一冊

萬笈閣製本専賣書屋

東京

須原屋茂兵衛
山城屋佐兵衛
和泉屋市兵衛
三家村佐兵衛
須原屋伊八
和泉屋金右衛門
出雲寺萬次郎
岡田屋嘉七
須原屋新兵衛
和泉屋吉兵衛
須原屋佐助
中島靜助
藤岡屋慶次郎

東京

山口屋藤兵衛
森屋治兵衛
雁金屋清吉
和泉屋勘右衛門
山城屋政吉
村上出店
鈴木喜右衛門
紀伊國屋源兵衛
紀伊國屋梅次郎
紀伊國屋德藏
大坂屋藤助
袋屋龜次郎
河内屋文助

西京

菱屋孫兵衛
勝村治右衛門
出雲寺文次郎
田中屋治兵衛
吉野屋仁兵衛
吉野屋甚助
堺屋仁兵衛
堺屋九兵衛
丹波屋德次郎
錢屋總四郎
菁屋宗八
福井孝助

大阪

書籍會社
書林會社
同

大阪

河内屋喜兵衛
伊丹屋善兵衛
河内屋源七郎
辻江屋平助
敦賀屋九兵衛
秋田屋太右衛門
河内屋太助
河内屋和助
河内屋茂兵衛
河内屋吉兵衛
河内屋德兵衛
河内屋卯介
河内屋龜七
河内屋忠七
河内屋重助

尾州名古屋

永樂屋東四郎
萬屋東平
菱屋藤兵衛
菱屋平兵衛
美濃屋伊六
美濃屋文次郎
美濃屋代助
永樂屋正兵衛
金網屋伴五郎
文教堂保兵衛
濃州大垣
岡安慶助
岐阜
柏屋善七
飛州高山
桃屋重兵衛
加州金澤
近岡屋太兵衛
甲州山梨
藤屋傳右衛門

駿州沼津
本屋浦吉
本屋壽三郎
本屋源介
浪花屋市藏
須原屋善藏
東屋俊平
遠州濱松
伊勢屋清七
伊勢屋權平
白木屋健二郎
松原惣太郎
水屋文吉
參州岡崎
加藤利兵衛
鹿島十兵衛
勢州四日市
吉田屋善太郎
本屋佐兵衛
同

皇漢西洋翻譯

書籍賣弘所

東京

本石町貳丁目

椀屋喜兵衛

江島萬笈閣

同　村田屋孝太郎
信州長野　小枡屋喜太郎
同　蔦屋代五郎
同　上田　鼠屋甲造
同　飯田　十一屋半四郎
同　須阪　和泉屋吉右衛門
武州深谷　酒井省吾
同　忍　原田清太郎
下總野田　梅屋林藏
同　佐原　正文堂利兵衛
野州宇都宮　萬年屋忠兵衛
同　荒物屋伊右衛門
岩代若松　龍田屋萬助
同　福島　太野屋彦太郎
陸中仙臺　菅原屋安兵衛

同　山田　藤原屋長平
越中富山　中村屋甚吾
同　古川屋吉兵衛
同　市屋宇兵衛
越後長岡　島屋十郎
同　中村屋作平
同　上田屋治八
同　三條屋七十郎
同　柏崎　高桑屋小兵衛
備州岡山　中島屋益太郎
長州萩　山城屋彦八
羽前山形　北國屋彌平治
同　十一屋源助
同　谷地　田宮五郎
羽後秋田　岡田惣兵衛